

授業科目名	地域イノベーション実習	担当教員	瓶内 栄作 小畑 克典 千賀 喜史 小島 寛大 夏 世明 辻村 謙一
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	3 年 第 2 クォーター		
講義内容	Schumpeter. J. A の定義によると、イノベーションとは経済活動の中で生産手段や資源、労働力などをそれまでとは異なる仕方で新結合することを指す。そのなかでも日本企業におけるイノベーションは経営革新と称される。この実習では、地域にある中小企業のイノベーションの実践について、自ら体験しながら学習する。 イノベーションを実現した企業に出向き、経営者や社員の皆さんの体験談を聞き、企業の組織風土や、イノベーションに至る課題の発掘方法、イノベーションが創出できた理由やその成立プロセスなどについて、自らも企業の中で行動することによって学ぶ。 指示に基づきながらも、自らができることを考え、主体的に行動することによって、最終的には取組内容について、独自の考察を加えたレポートを作成し、実習先に対してプレゼンテーションを実施する。		
到達目標	課題をイノベーションに転換するプロセスについて、理解することができる。 実習先におけるイノベーションの取組や現実的課題について、理解することができる。 必要あれば事業に関する調査・分析を実施し、改善提案等の企画立案ができる。 実習先経営者や社員、その関与先との円滑なコミュニケーションを実践できる。 自らの体験に基づき、独自の考察を加えたレポートを作成できる。 レポートについて、実習先経営者や社員を交えプレゼンテーションを実施できる。		
授業計画	本実習は 5 日間×2 週を現地での実習期間としている。限られた期間での実習であるため、事前準備をして、効率的な行動が求められる。 1. 学内でのオリエンテーション 2. 現地訪問 1 日目 現地でのブリーフィング、見学 3. 現地訪問 2 日目 イノベーションの背景となった課題についての学習 4. 現地訪問 3 日目 イノベーションの実践現場視察 5. 現地訪問 4 日目 イノベーションの取組についての実践 6. 現地訪問 5 日目 1～4 日目の振り返り 7. 現地訪問 6 日目 課題をイノベーションに転換するプロセスについての		

	<p>学習</p> <p>8. 現地訪問 7 日目 自らの考察について経営者や社員との意見交換</p> <p>9. 現地訪問 8 日目 レポート資料作成(基本構想)</p> <p>10. 現地訪問 9 日目 レポート資料作成(資料完成)</p> <p>11. 現地訪問 10 日目 プレゼンテーション資料作成</p> <p>12. 学内での学習成果発表(プレゼンテーション実施)</p>
事前・事後 学習	特になし
テキスト	特になし
参考文献	<p>『イシューからはじめよ』、安宅和人、英治出版、2010 年</p> <p>『問題解決』、高田 貴久・岩澤 智之、英治出版、2014 年</p> <p>『ロジカル・プレゼンテーション』、高田貴久、英治出版、2004 年</p>
成績評価 の 基 準	実習の態度(30%)、レポート(50%)、プレゼンテーション(20%)により評価する。
履修上の注意 履修要件	<p>地域イノベーション論を履修済みであることが望ましい。</p> <p>実習先の皆様は日常業務に大変忙しい中、皆さんの学びの場を提供するためにご協力いただいている。礼節をもって接し、失礼がないように心がけること。</p>
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	